

写生に出かけた少年

小川未明

青空文庫

野原のほらの中なかに、大おおきなかしの木きがありました。その下したで、二ふたり人の少しょう年ねんは、ああたりの風ふう景けいを写しゃ生せいしてました。

ああちらには町まちがああつて、屋や根ねが強つよい日ひの光ひかりにかがやいてます。ここちらには、青あお々あおとした田たん圃ぼがああつて、野や菜さいの花はなが、白しろに黄きいろ色いろに、咲さいているのが見みられました。

「僕ぼくは、ああの並なみ木きをか描かこう。」と、西にし田ただが、いいました。

だだままつて、南みなみは、じじつとひととこころを見みつめては、チちョョークをううごごかしてました。

「君きみは、ななにを写しゃ生せいしているの？」

西にし田ただは、友ともだちのスケちツち帳ちようをのぞくと、煙えん突とつから、煙けが上あ

がつている、町の遠景を描いていました。

「いいね、あの風に光っている木立も、雲も……」と、顔を上げた南が、答えました。

このとき、前方から、一人の男が、なにかぴかぴかするものを、手のひらにのせて、それを見ながら、やってきました。

「光るな、なんだろうか。」と、南がいました。

「あの男は、ばかなんだよ。」と、西田がいました。

「ええ、ばか？」

「ああ、あの男は、ばかなんだよ。けれど、おとなしい、なんにもわるいことをしないのだ。活動のエキストラになんか出て、喜んでいられるという話だよ。」と、西田は、人から聞いたことを話

しました。

「どうして、ばかになつたのだらうね。」

南は目^{みなみ}をみはりながら、あちらからくる男^{おとこ}を見^みていました。帽^{ぼう}子^{うし}もかぶらずに、手^てのひらを熱^{ねっしん}心^{しん}に見^みつめています。

「あれは、金^{きん}貨^かみたいだね。」

「は、は、は、金^{きん}貨^かなもんか。きつと、新^{あたら}しい一^{せん}銭^ど銅^{どう}貨^かなんだよ。光^{ひか}るから喜^{よろこ}んで見^みているのだらう。」

「たくさん持^もっているね。」

「ほんとうに、光^{ひか}るのばかりためたんだらう。」

ふつうならば、高^{こう}等^{とう}小^{しょう}学^{がく}か、中^{ちゅう}学^{がく}一年^{ねん}へでも入^{はい}つてい
る年^{とし}ごろでした。どうしてばかになつたんだらうと思^{おも}うと、南^{みなみ}は、

なんだかいじらしい気がして、笑われなくなりました。

男は、こちらに自分を見ているものがあるとも知らず、また、夏の景色がどんなに美しくかろうと目を向けず、ただ、手のひらの銅貨に気をとられて、ひとり、にやにや、たのしそうに笑いながら、わきみもせず、道を歩いていました。

すると、こつちから、馬子が、手綱をとり、馬に空車を引かせてやってきました。

そして、いつかばかすれちがいになったのです。それでもばかは、ただ自分の手のひらの上の銅貨だけを数えたり、ながめたりしていました。

「あぶない。」と、西田が、思わず、いったときです。ばかは、

馬うまの顔かおに自分じぶんの顔かおを打ちつけました。

「ひやつ！」と、びつくりした彼は、おどろいて顔かおを上げると、馬うまの大きな顔かおを見たので、手てに持もっていた、銅貨どうかをばらばらと落おとしました。

ガラガラと、そんなことに気きづかず、馬子まごは、馬うまを引ひいていつてしまいました。

その後あとで、ばかは、いっしょうけんめいに落おとした銅貨どうかをひろっていました。

すると、また、けたたましい音おとをたて、あちらから、オートバイが砂すな煙けむりを上げあててきました。なんと思おもったか、あわれな男おとこは、拾ひろった銅貨どうかをにぎって、逃にげるように、どこへとなくか

け出していきました。

「あ、は、は、は。」と、二人の少年は、その有り様を見て、笑わずにいられませんでした。

二人は、また写生にとりかかつて、しばらくは、それに余念がなかつたのです。

「西田くん、あすこに、光るものが落ちているね。」と、さつきばかの銅貨を落とした道の上を、南が指したのです。

「ああ、オートバイがきたので、あわてて、みんな拾わずにいったんだよ。」

「かわいそうだね。」

「きつと、さがしに、もどってくるだろう。」

「早くもどつてくればいいが、知らぬ人が通ると拾つてしまふね。」

「もうすこし、ここにいて、あの銅貨の番をしていようや。」と、西田と南は、顔を見合つて笑いました。そのうちに、はたしてはかが、あちらから、道の上を血眼になつてさがしながらもどつてきました。そして、落ちていた銅貨を見つけると、飛びつくようにひろつて、喜んでほおにおしあてました。

「かわいいそうにね。」と、二人の少年は、白い雲を見上げながら、野原をさつたのであります。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 12」講談社

1977（昭和52）年10月10日第1刷発行

1982（昭和57）年9月10日第5刷発行

底本の親本：「赤土へ来る子供たち」文昭社

1940（昭和15）年8月

初出：「小学四年生」

1939（昭和14）年8月

※表題は底本では、「写生《しやせい》に出《で》かけた少年

《しょうねん》」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2017年5月20日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

写生に出かけた少年

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>